

2007年度の 工学研究院の活動に ご注目下さい

工学研究院長 國分泰雄



工学研究院は2007年度にもさまざまな取り組みを行い、教育と研究に成果をあげました。この工学研究院ハイライトは、工学研究院に所属する教職員に対しては自分たちの取り組みを確認するため、学外の皆様には我々の取り組みを広くご紹介するため、2004年度から毎年作成して各方面に配布しています。

工学研究院は教員が所属する組織であり、大学院教育は工学府、学部教育は工学部にて担当教員が行っています。それらの組織における2007年度の活動の中から、この冊子では教育、研究、社会/国際貢献、組織運営、の各項目についてのアクティビティを取り上げてご紹介いたします。

昨今の国立大学法人をとりまく環境は厳しく、また改革の動きはめまぐるしく、運営費交付金の配分方法見直しや削減を基調とする提言が出されて、投入された国費に見合った活動を国立大学がしているのかを問うようなマスコミ等の論調も見られます。それに対する反論は、まず国立大学のアクティビティを広く知って頂くことが第一です。法人化前の国立大学はとかく広報活動には熱心でない時代がありました。国立大学法人化後に各国立大学はその姿勢を大きく転換しています。

国立大学法人の教育研究活動の評価は、詳細なデータに基づいて議論されるべきで、そのために各国立大学法人は2004年4月のスタート時に、6年間の中期目標・中期計画を立てて文部科学省に提出するとともに社会に公開して、各大学の理念や教育・研究・社会貢献・管理運営などの各年度の成果も公開しています。本学でも、中期目標期間中の各年度の詳細な実績報告書を文部科学省に提出して評価を受けた後、本学のホームページ(http://www.ynu.ac.jp/ynu/press/open/op_4.html)で公開しています。

詳細なデータを公開するのはホームページなどの他の広報媒体が適しておりますので、多くの項目にわたる詳細な実績報告や経営に関する財務諸表はホームページをご覧ください。このパンフレットでは、工学研究院が教育・研究・社会貢献・組織運営にいかにより努力して成果を挙げてきたかを大まかに把握していただくことを目標としました。本報を読まれた工学研究院の構成員は、さらなる発展を目指すための1つの基礎データとして活用していただき、また学外の皆さまは本報を一通り読んで、工学研究院の活動やその成果について、忌憚のないご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

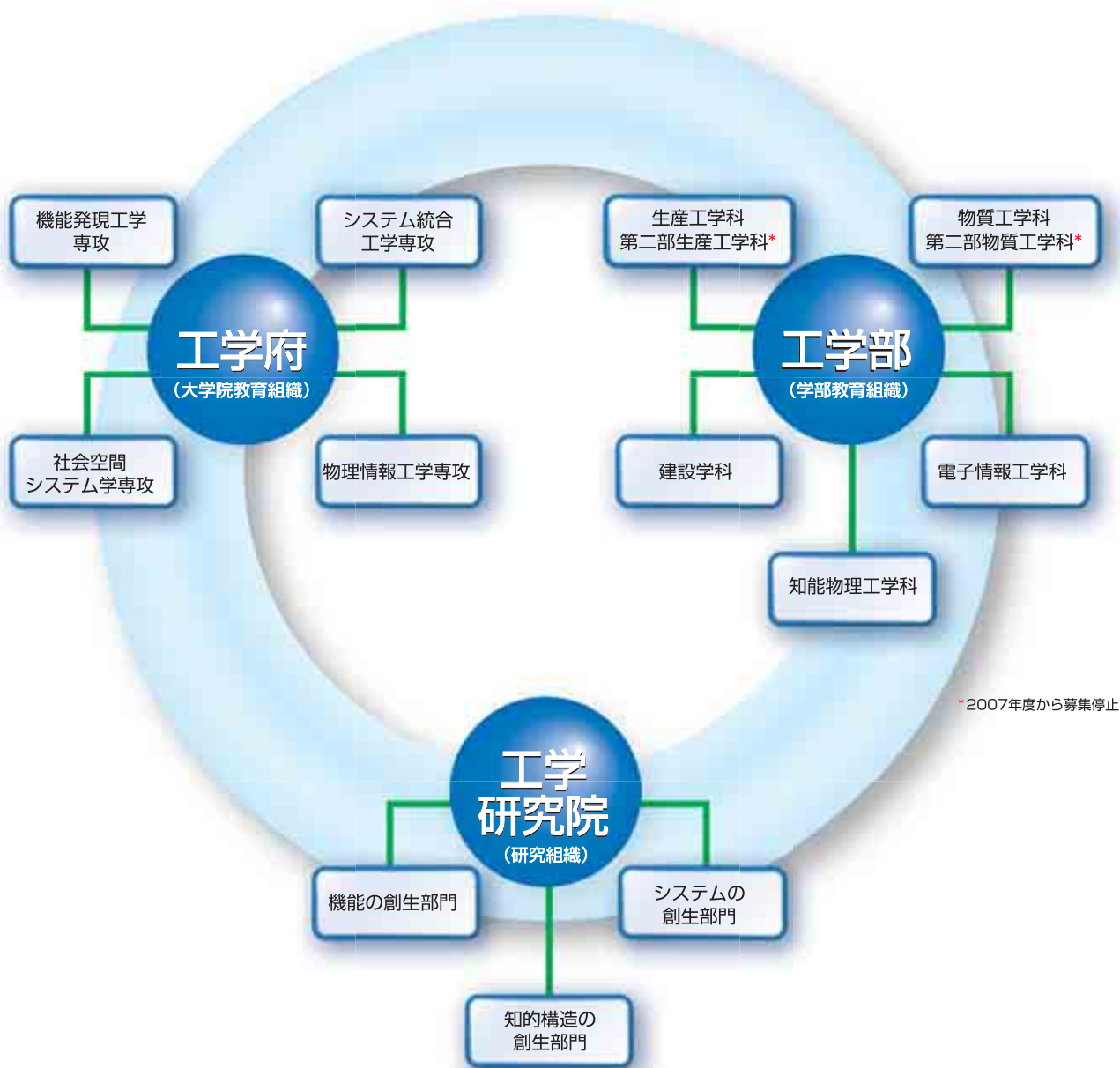
工学研究院 / 工学府 / 工学部

研究と教育の組織について

本学工学部は2001年度に教育・研究組織の変革を行い、研究分野毎に教員が配置される研究組織(工学研究院)と、大学院教育組織(工学府)および学部教育組織(工学部)の3者からなる組織に改組されました。社会のニーズに合わせて、研究・教育の組織をより柔軟に変えていくことを目指したものです。

運営の一体化をはかるために3つの組織の長(工学研究院長、工学府長および工学部長)は工学研究院長が兼務しておりますが、学部教育の責任体制をより明確にするために2004年度から新たに工学部主事を配置致しました。

また、工学府の教育は工学研究院に所属する教員によって実施されますが、工学部の教育は工学研究院のみならず、環境情報研究院に所属する大勢の教員にもご参画いただいて、その重責を荷っております。



*2007年度から募集停止